

研究課題名	薬袋変更による誤認防止の取り組みが薬剤関連インシデント発生に与える効果の検証
研究の意義・目的	内服薬を服用するタイミングでは、薬剤の間違い、数量の間違い、服用時間やタイミングの間違いなどの様々なエラーが発生する可能性があります。薬袋には、薬剤名、服用する数量、服用時間などの情報が記載されており、それらの情報を明確に表示することで、内服時のエラーを防ぐことができると考えられます。インシデントレポート（患者様の心身に不必要な障害および傷害を及ぼした可能性があった、または実際及ぼした事象、状況に関する報告）の中で、薬袋の記載の見間違い、思い込みによる取り間違いなどの事例が報告されていたことから、当院では、2019年3月に薬袋の記載内容、発行ルール、デザインの変更を実施しました。薬袋に関しては、標準的な記載ルールというものが存在しておりません。また、薬剤関連のインシデントと薬袋の関連性については、まだ十分に明らかにされていません。今回、薬袋視認性の向上や誤認防止の取り組みが医療安全に与える影響について解明することは、安全な医療の構築に有意義だと考えております。
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日 ～ 2025年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2017年3月～2021年4月に大阪市立大学医学部附属病院（現 大阪公立大学医学部附属病院）に入院された方、インシデントレポートを作成された医療従事者の方
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ① インシデントレポート：年齢、性別、診療科、入院病棟、入院日、退院日、基礎疾患、影響レベル、報告者の当事者情報（職種、経験年数）、エラーパターン、発生日時、発生部署、レポートの内容、発生要因 ② 患者基本情報：処方歴、服薬管理状況 ③ 病院情報システムデータ：入院患者数
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究責任者	大阪公立大学医学部附属病院 薬剤部 須田泰記
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院薬剤部のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。 インシデントレポートを作成した医療従事者の方においても、下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への参加を断っても業務、待遇、昇進等に対する不利益を受けることはありません。

**連絡先**

大阪公立大学医学部附属病院 薬剤部 須田泰記

電話番号：06-6645-2276 Email：ysuda426@omu.ac.jp